

授業科目名・形態	介護総合演習Ⅰ 演習	必修・選択の別	選択	単位数	1
科目担当者氏名	石岡和志・柴田博・今野修	実務経験の有無	有	開講期	1年後期

【授業の主題】

介護実践に必要な知識と技術の統合を行なうとともに、介護観を形成し、専門職としての態度を養う学習とする。また、実習の意義や目的などを踏まえて、実習の心得、実習記録の書き方など実習に向けた基本的な準備を行う。介護実習Ⅰに出る前の演習であり、訪問介護やデイサービス、小規模多機能型居宅介護等サービスなど、居宅型サービスについて学習する。

【到達目標】

1. 事前に実習施設に関する理解を深めるとともに、各領域で学んだ知識と技術の統合を学生が出来るようになる。
2. 学生が介護に興味や関心を持ち、実践したいという気持ちになること。
3. 実習記録の書き方を習得する。

【授業計画・内容】

- 第1回 介護実習の意義と目的
- 第2回 介護実習と専門科目との関連
- 第3回 実習施設についての理解（障害者支援施設）
- 第4回 実習施設についての理解（重症心身障害児施設・救護施設）
- 第5回 老人居宅生活支援事業・老人デイサービスについての理解
- 第6回 実習の心得
- 第7回 介護実習前の介護技術の確認
- 第8回 専門職に求められる福祉の理念、職業倫理について
- 第9回 実習記録の書き方（本学様式）①
- 第10回 実習記録の書き方（本学様式）②
- 第11回 実習記録の書き方（本学様式）②
- 第12回 実習記録の書き方（本学様式）②
- 第13回 各実習施設担当教員による事前指導（実習計画等）
- 第14回 各実習施設担当教員による事前指導（実習計画等）
- 第15回 介護実習Ⅰに関する諸注意事項の確認と実習最終準備作業

【授業実施方法】

演習形式で行う。

【授業準備】

特に認知症のグループホームやデイサービスなど通所介護については事前学習しておくこと。

【主な関連する科目】 介護過程、介護の基本、高齢者福祉論、障害者福祉論、認知症ケア論

【教科書等】

最新・介護福祉士養成講座 10 介護総合演習・介護実習 第2版 中央法規出版

【参考文献】

必要時に資料を配付する。

【成績評価方法】

授業態度等 10%、授業内での発表 30%、レポート及び実習計画書等の提出物 60%の総合判定とする。

【実務経験及び実務を活かした授業内容】

福祉施設で介護職員として介護業務を経験

介護の現場で経験を活かし、利用者主体の介護が提供できるように指導していきたい。

【学生へのメッセージ】

実習施設の概要などを主体的に調べ、介護実習が実りあるものとなるよう積極的な授業参加を期待する。